

富山湾沿岸の野鳥

会員 奥川光治

健康維持を兼ねて富山湾の海岸沿いにウォーキングをしています。冬になると多くの渡り鳥が目を楽しませてくれます。ここでは、2020年、2021年のおもに冬季に富山湾の沿岸で見かけた野鳥をいくつか紹介したいと思います。

(1) カモメ類

呉東から呉西まで、漁港や河口で多くのカモメ類が見られました。カモメ類にはカモメのほかウミネコ、セグロカモメなどいろんな種類のものであり、いずれもチドリ目カモメ科カモメ属に属しています。成鳥冬羽の見分け方はセグロカモメ(写真1)の体上面の色(青灰色)を基準にします。セグロカモメは足がピンク色で、嘴は黄色く、下嘴の先端に赤斑があります。翼先は黒く、白斑があります。カモメは黄色の足、黄色い嘴、翼は灰色(セグロカモメと同等の濃さ)、翼先は黒く、白斑があります。ウミネコ(写真2)は猫のような鳴き声で、足は黄色、嘴も黄色で先端が赤く、その内側に黒斑があります。体上面はセグロカモメより濃い黒灰色、尾羽は黒色です。カモメ類は数種類が一緒に群れていたり、幼鳥・若鳥は成鳥とは異なる色をしているので、遠くからは見分けにくいですが、カモメはおもに魚類を捕食しますが、セグロカモメやウミネコは魚類のほか動物の死骸を食べることもあります。

(2) カモ類

丘陵部の溜池、平野部の河川や用水路ほどではありませんが、富山湾沿岸でも多くのカモ類(カモ目カモ科)が見られます。なかでも多いのがマガモ属のヒドリガモで、上市川・白岩川の河口、海老江浜公園、富山新港や新湊漁港、庄川河口・伏木港、氷見漁港などで見られました。ヒドリガモ(写真3)のオスは茶色の頭にクリーム色の鼻筋、胸は赤みのある褐色、体は灰色で尾は黒いです。メスは全体に赤みのある褐色です。嘴は雌雄ともに青灰色で先端が黒くなっています。次に多いのがカルガモ(マガモ属、写真4)で、黒部漁港、上市川河口、射水市本江の海岸、富山新港東貯木場周辺や奈呉の浦で見られました。カルガモは留鳥で広く分布しており、都市公園での親子の散歩がよくニュースになります。カモ類は雌雄同色でないことが多いですが、カルガモは雌雄ほぼ同色で、嘴は黒く、先端は黄色。頭頂と過眼



写真1
セグロカモメ(八重津浜)



写真2
ウミネコ(新湊漁港)



写真3
ヒドリガモ(上市川河口)



写真4
カルガモ(上市川河口)



写真5
キンクロハジロ
(海王バードパーク)

線、体は焦げ茶色、足は橙色です。ほかにはマガモ属のマガモとコガモ、ハシビロガモ、ズマガモ属のホシハジロとキンクロハジロ(写真5)も見られました。カモ類は植物の葉や果実、小型の無脊椎動物などを食べますが、ヒドリガモは海藻類も好むので、海辺にも多いでしょう。

(3) その他

カモ類と一緒にいて、よく似ている鳥にツル目クイナ科オオバン属のオオバンがいます(写真6)。黒い体に白い嘴と鼻筋、赤い虹彩が特徴です。植物食傾向の強い雑食で、逆立ちして潜水し採食します。経田漁港、上市川・白岩川の河口、足洗潟、富山新港東貯木場周辺、新湊漁港や内川で見かけました。1ヶ所にたくさんいることはなく、数羽でいるのが普通です。

以下は年中見かける野鳥ですが、サギの仲間ではアオサギ(ペリカン目サギ科アオサギ属、写真7)を黒部漁港、新湊漁港、富山新港西貯木場、足洗潟などで見かけました。体は青灰色で、頭部に濃紺の線があり、長い冠羽へとつながっています。動物食で、魚類、両生類、は虫類などを捕食します。漁港ではおこぼれを狙っているようで、漁船上で待っていることもあります。本稿で取り上げている鳥の中では一番大きく、全長90cmほどになります。

各地の漁港では、雑食性で動物の死骸、魚類、昆虫などを捕食するトビ(タカ目タカ科トビ属)が上空で円を描いているのをよく見かけます。また、ウミウかカワウか判別は難しいですが、ウ(カツオドリ目ウ科ウ属)も見られます。珍しい野鳥では、黒部川河口や奈呉の浦で、青赤ツートンカラーのインヒヨドリ(写真8)に出会ったことがあります。ヒヨドリの仲間ではなく、ズメ目ヒタキ科インヒヨドリ属です。昆虫など小動物を捕食します。

海王バードパークには本稿で紹介した多くの野鳥がいます。まだ行かれたことがない方は、ぜひ訪れてみてください。多様な野鳥がいつまでも生息できるよう富山湾の生態系が守られることを願っています。

参考文献

石田光史(2015)ぱっと見わけ観察を楽しむ野鳥図鑑、ナツメ社

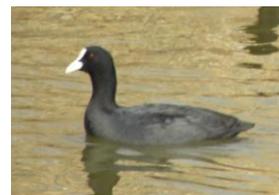


写真6
オオバン(足洗潟)



写真7
アオサギ(黒部漁港)



写真8
インヒヨドリ(奈呉の浦)